

日本労働年鑑 第55集 1985年版
The Labour Year Book of Japan 1985

第二部 労働運動

IX 国際労働組合運動と日本

2 国際労働組合の諸会議

2 国際自由労連ICFTU・国際産業別組織ITS系の会議

ITF第三四回大会

国際運輸労連ITFの第三四回大会は八三年一〇月二〇～二八日マドリードで開催され、六三カ国、六五〇余人の代議員が参加した。開会式におけるブレヒトル会長の挨拶の基調は、一九八〇年代の増大する課題をまえにしての労働者の国際連帯の必要性であり、会長は超大国に軍拡競争の終結を求める緊急アピールを発表した。大会のハイライトの一つはスペインのゴンザレス首相(社会党)の演説で、「過去数十年にITFがスペイン労働組合の期待を裏切らなかったように、ITFは第三世界の労働組合活動家の期待を裏切るものでないことを知っている」と述べた。

大会では三七の決議が採択され、さらに、一二の決議がいつその検討のため執行委員会に付託された。採択された決議のなかには、高失業水準に重大な関心を表明し、退職年齢引き下げ、残業排除、労働時間短縮により雇用を創出する、一致協力したITFのキャンペーンを求めたもの、海洋汚染を減らす諸措置を求めたもの、海洋投棄を目的とした核廃棄物の取り扱いと輸送の拒否を加盟組合に求めたもの、鉄道の民営化と道路輸送産業の規制撤廃に反対するもの、トラック労働者のための最低基準に関する新しいILO条約を求めるもの、便宜置籍船に関するキャンペーンをより効果的にするための政策要綱に関するもの、民間航空の客室乗務員の疾病について書記局に調査実施を要請するものなどがふくまれていた。

最後に大会は、アジア・太平洋地域選出の執行委員の一人増、副会長を三人から四人に増員して会長と副会長を異なった地域から選出するようにする、など規約の重要な改正を二つおこなったうえで、オーストリア鉄道労組のフリン・ブレヒトルを会長に、ハロルド・ルイスを書記長にいずれも再選し、O・オエエミ(ナイジェリア鉄道労組)、R・M・ペレス(アルゼンチン・トラック労働者連合)、武藤久(国鉄労組)、T・W・グリーンソン(北米港湾労働者組合)を副会長に選出した。

第四回IMF世界電機電子会議

八三年一〇月三～五日東京で国際金属労連IMFによって開催され、三〇カ国の電機労働者を代表する三六組織から合計一三〇余人名の代議員が参加した。会議が発表した宣言によれば会議の焦点は、(1)IMF調査部資料にもとづく電機電子産業の動向、(2)情報技術および情勢の展開、(3)とくに日本に言及した世界の電機産業の情勢、(4)最新技術をふくむ経済動向とそれが雇用におよぼす影響、(5)多国籍電機企業の戦略、(6)世界の電機産業が作り出す諸問題にたいする労働組合の対応、などに関する討論であった。これらの問題に関する主な発言者は、宮田義二金属労協議長、豎山利文電機労連委員長、アアルコ・バン・デル・ビーン(オランダ)、J・ワイゼンバーム(マサチ

ューセツ工科大学教授)、志賀学通産省機械情報産業局長、W・シーリッヒ西独シーメンス社取締役、岡野貞夫東芝総合企画部長、H・レブハンIMF書記長、ベルナー・トレッセンIMF書記次長である。

会議が採択した宣言は、電機電子産業における雇用の減少は深刻であるとともに一時的なものでなく、紀元二〇〇〇年までもつづく長期的なものであると評価し、失業発生の原因は、一般的経済危機による購買力の低下と電子設計・製造技術の応用と経営自体の近代化によるものすごい省力化にあると指摘、省力化と最新技術にもとづく生産性向上により巨額の利潤をあげている各企業で労働時間の短縮と雇用の創出をはかるべく、ただちに労働組合と協力するよう各国政府にたいして要請している。また、宣言は、失業惹起の要因としての最新の技術の重要性にかんがみ、労働組合は最新技術に関する協約でつぎの諸点に力点を置かなければならないとしている。その諸点とは、(1)最重点課題としての、所得の喪失をとまなわない労働時間の大幅短縮、(2)新しい技術の導入に関する使用者側からの早期の情報、(3)技術革新を監視し交渉する機関の設立、(4)労働組合および専門家の職場への出入りをふくむ、部外専門家を活用する労組の権利、(5)無協約のままの変革に反対する権利、(6)訓練および再訓練、(7)早期定年退職制度、(8)新しい技術が解雇、配転、降等、降給をもたらす場合の賃金保障と、その他のかたちによる所得の保障などである。

第七回日米加金属労組会議

八三年一〇月二六～二七日モントリオールで開催され、金属労協から宮田義二議長、瀬戸一郎事務局長をはじめとする一人の代表団が出席した。会議では失業、エネルギー供給、資源、労使関係、国際貿易、多国籍企業の活動をふくむ共通の関心事が討議され、出席代表はつぎの点で合意をみた。世界経済の困難は深刻な雇用問題をひき起こしているが、出席代表は公正な貿易政策を強く支持する。相互的経済関係を保持し、諸産業を発展させ、かつ雇用問題に対応するためには、関係国間における生産活動の適正な移動の必要性を認識する。出席代表は各国政府と企業にたいし、積極的な政策を採用し、あらゆる段階の決定機構に全面的参加者として労働組合運動を受け入れるよう訴える。多国籍企業の組織化の責任は受け入れ国の労組にあるが、親企業の労組はこれに協力する立場に立つべきものと信ずる。次回会議は八四年に日本で開催する。

第四回アジアFIET大会

国際商業事務専門職技術労連FIETのアジア組織の第四回大会が、八三年一一月一六～一九日に東京で開催された。大会の中心テーマは「アジアにおける労働組合と開発」で、四一組織から八四人の代議員、三九人のオブザーバー、四四人のゲスト、一八人のスタッフ、合計一八五人が参加した。大会では、FIET本部のマイヤー書記長が基調報告をおこない、各執行委員がテーマにそった講演をおこなった。また、産業能率大学小林薫教授による特別講演「日本の労使関係と生産性」が各国の注目をあつめた。この大会で執行委員の定数が五人から九人に増員され、日本からは会長に山本勝一(商業労連)、執行委員に得本輝人(自動車労連)が選出された。

第二〇回FIET世界大会

国際商業事務専門職技術労連FIETの第二〇回世界大会は、「変動する世界とFIET」をテーマに八三年一一月二一～二五日東京で開催され、五六カ国一三三組織から代議員二九九人、オブザーバー一三一人、ゲスト二七人の合計六四七人が参加した。大会ではマイヤーFIET書記長の基調報告「変動する世界と労組の優先取り組み課題」を中心に討議がおこなわれ、書記長がここで優先課題としてあげた(1)雇用保障と仕事の創出、(2)公正かつ効果的な開発・貿易政策、(3)同一労働同一賃金と機会均等、(4)実質賃金の継続的改善、(5)労働の人間化と労働環境の保全、(6)労働時間

の短縮、(7)ニュー・テクノロジーへの対応、(8)労働組合組織の強化、の八項目につきFIET副会長、地域会長、婦人問題・テクノロジー問題両作業委員会議長が報告をおこなった。大会最終日には加盟組合提出の三一の動議が平和と軍縮、労働時間、教育と訓練、男女の機会均等、開発と貿易政策、労働組合機関への女性の参加、雇用形態の変化と労組の対応、多国籍企業のコントロール、パートタイム労働など一八の決議にまとめられ採択された。役員選挙では引退するガンター・ステファン(DGB)に代わり、第一副会長トーマス・ホエイリー(アメリカUFCW)が会長に選出され、日本からは山本勝一(商業労連事務局長)と芦田甚之助(ゼンセン同盟書記長)が第八地域(アジア)選出の執行委員に選ばれた。

第二回IMFアジア造船作業部会

八三年一月二五日～二六日東京で、台湾、韓国、シンガポール、日本の四カ国労働組合代表の出席のもとに開催され、一月二八日開催の国際金属労連IMF造船作業部会と、一月三〇日開催のOECD造船作業部会とIMF造船作業部会との会議をひかえ、アジアにおけるIMFの主要国の現状、問題点、今後の展望などについて協議した。

IMF造船作業部会

国際金属労連加盟の主要造船国の労働者の代表四〇人は、日本でのOECD第六作業部会開催にあわせて労働組合の政策を策定するため八三年一月二八～三〇日に東京に集まった。会議が発表した「東京宣言」はつぎのように述べている。

【東京宣言(一部)】

約一〇年間の危機の後に今造船業は、多くの工場閉鎖と残存造船所の労働者の大幅な減少により、大量の労働者の削減という新しい波にさらわれようとしている。状況はいまやどの国の労働組合もこれ以上の産業の衰退を容認する訳にはいかない段階に達している……、我々の要求は以下の通りである。

- 1、世界経済の強力な持続的再生を国際的に調整していくことにより、雇用創出を最優先にして、経済的・社会的政策を根本的に変革させること。
- 2、不安全、公害、老朽化しかつ非経済的な標準以下の船舶のスクラップ化の促進と新しい省エネルギー、経済的かつ安全な船舶の開発を図ること。

3、上記の目的のため、海上での安全と自然環境保護に関する国際協約の全ての国での批准を図り、入港する船舶を政府が厳重にチェックすることを含めてそれらの協約の一般的適用を図っていくこと。(以下略)

日本労働年鑑 第55集 1985年版

発行 1984年12月15日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月21日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1985年版(第55集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
